

おはようございます。

生徒の皆さん、お元気ですか。

いま愛知県下の全ての学校は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために臨時休業となっています。本校では、始業式直後に休校となり、全員が集まる機会はなくなってしまいました。友達や先生の顔を見ることができず、不安になったり、寂しくなったり、孤独を感じているのではないかと心配しています。

今、このようなメッセージを出すのは、皆さんに、ここは我慢して耐えていこう、このコロナ騒ぎが収まったときに、生き活きと活動できる力を蓄えておこうと呼びかけたいからです。

本校の校訓は「慈 中 忍」です。慈とは慈しみの心で、周りに対するおもいやり、優しさです。忠とは、真っすぐな心で、正しいことを貫く姿勢です。忍とは、耐え忍ぶ心で、粘り強く最後までやり抜く力です。この三つの心は、今の世界が直面している困難な境遇に耐えて、乗り切るためにも最も必要な態度だと思います。

そして、明後日の5月3日は市邨学園の創立記念日にあたります。

本校は、113年前の1907年（明治40年）に市邨芳樹先生により創立されました。この日に布池町の市邨先生の自宅で入学式が行われ、5月8日から下笠杉町の仮校舎で授業が始まりました。名古屋女子商業学校の始まりです。入学生は26名だったそうです。

そのころは、女子が学校に通うということは当たり前ではありませんでした。義務教育が4年から6年に拡大された頃で、中学校は男子だけが通うところでした。商業教育は当時最先端の学問であり、日本の将来をリードしていく教育でした。名古屋商業学校（いまのCA）の校長をしていた市邨芳樹先生は、男子だけではなく女子にも商業教育が必要だと考え、自分の財産をはたいて学校を設立したのです。

祝日と創立記念日が重なっていますが、5月3日に憲法が制定されたのは、40年後の1947年のことです。

本校が、現在の地に移ったのは、戦争後の1954年(昭和29年)のこと、そして、男女共学になったのは2002年(平成14年)です。この時、商業科を廃止して、普通科となりました。校名が現在の、名古屋経済大学市邨中学校・高等学校になったのもこの時です。

市邨学園は、創立以来、時代の動きを取り入れた先進的な学校教育を行ってきました。私たちは、この歴史と伝統を受け継ぎながら、チャレンジを続けていきたいと思います。このチャレンジ精神によって、現在も市邨は、先進的なICT教育環境を整え、生徒一人一台のiPadが使用しており、他校では見られないオンライン学習が可能になっているのです。

生徒の皆さんは、このような世界的な危機の中にあっても、市邨生としてのアイデンティティを大切に、誇りを持って、学び続けるよう期待しています。

結びに、本校では、創立記念日にあたって、毎年、人物・学業にすぐれた生徒に「市邨賞」を贈って、その努力をたたえ、表彰しています。今年は、高校からは、佐藤涼帆さん、中学からは大矢杏紗さんが選ばれ、4月28日に授賞式を行いました。生徒の皆さんがこれを励みにして、建学の精神を受け継いで努力して欲しいと思います。

今年で創立114年目になります。「114年目のIchimura」に誇りを持ち、コロナウィルスの禍を克服し、生き生きした学校を作りましょう。